

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3590104059		
法人名	株式会社セービング		
事業所名	グループホーム棕野		
所在地	山口県下関市棕野3丁目22番43号		
自己評価作成日	令和2年4月	評価結果市町受理日	令和2年9月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年5月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム棕野の理念でもある「むりせず、くらくをともに、のんびりと」をモットーに日々の業務に取り組んでいます。入居者一人ひとりに役割を持って頂けるよう、洗濯たみや洗濯物干し、食器洗いや掃除等を一緒に行って頂き、家庭で過ごしていた時と同じような生活を過ごして頂けるよう支援しています。地域との関わりが持てるように、認知症カフェや夏祭り等の地域行事への参加も行っています。また、月に1度、外食や観光施設への外出を行い、楽しく過ごして頂いています。御家族との繋がりを大切にして頂けるよう、広報誌「むくのだより」を毎月送り、日々の生活の様子を写真、お便りにてお伝えし、年に数回家族会を開催し、関係が深まるよう支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

入居時に本人や家族から、生活歴やそれまでの暮らしの様子、得意なこと、苦手なものなどを聞かれて「基本情報シート」に記録しておられる他、日々の関りの中での利用者の言葉や表情、行動などを具体的に記録された「24時間生活変化シート」や、利用者の状況をわかりやすくまとめられた「施設介護経過」などを活用されて、月1回のカンファレンスで職員間で話し合わせ、利用者の思いや意向の把握に努めておられます。管理者や職員は、家族に利用者の様子を伝えられて、意見を出しやすいく雰囲気をつくれ、家族が参加される事業所の行事(家族会、誕生会、敬老会など)の時や、ケアプラン作成時の担当者会議、面会時などで、家族の意向や要望を聞いておられ、家族とともに利用者を支援しておられます。職員が地元自治会の清掃活動に参加される他、利用者の地域の認知症カフェや大学の焼き芋の会への参加や、ボランティアや小学生などとの交流を通して、地域の一員としての生活を支援しておられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義の理念を事業所に掲示している。日々の申し送り時に全員で唱和し職員間で共有し実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は朝の申し送り時に唱和している。年1回、内部研修で「理念の共有と実践」について学び、地域の人と共に、利用者へのサービス向上や楽しみを支えるよう、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも参加し、地域の一員として入居者様と地域の祭り等の行事や認知症カフェ等にも参加している。	自治会に加入し、職員が年2回、自治会の清掃活動に参加している。地域の認知症カフェに利用者と職員と一緒に参加している。大学生が企画する「焼き芋の会」に出かけて、学生と交流している。ボランティア(童謡の会、フルート演奏、平家太鼓、法人有志が結成している綾羅木バンド、フラダンスなど)の来訪がある。近くの教会の花の日の行事で、子供が来訪し、利用者に歌や花をプレゼンしている。中学生の職場体験を受け入れている。コンビニエンスストアやスーパーマーケットでの買物時や散歩、公園に出かけた時に、地域の人と挨拶を交わしているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域会議や認知症カフェ、運営推進会議等を通じ認知症について相談にのったり、地域の方々と認知症の方への理解や支援について話し合いをしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員全員で自己評価を行い、全員で自己評価をする事によって、日頃の活動内容を見直し、日々のケアの改善や質の向上に取り組んでいる。	職員会議で管理者が評価の意義を説明し、全職員に評価のための書類を配布し、評価項目に職員が記入した後、全職員で検討して管理者がまとめている。自己評価に取り組んだことで職員のケアの振り返りにつなげている。外部評価結果は職員会議や運営推進会議で報告し、「24時間生活変化シート」に利用者の様子を、より具体的に記入して、利用者の思いの把握に努めるなど、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いの内容は議事録に残し、職員会議で報告、話し合いを行い、サービスの向上に繋げている。	利用者や職員の状況報告、事故報告、行事報告や予定、研修報告等を行い、避難訓練についてや外部評価結果を受けての意見交換、地域の情報交換などを行っている。メンバーから地域行事の情報を得たり、地域の認知症カフェへの利用者の積極的参加に努めるなど、利用者へのサービス向上や地域との協力関係の構築に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加され、評価助言を頂いたり、サービスの取り組み等を報告している。また、徘徊者声掛け模擬訓練等を行う際には協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市担当者とは、電話やファックスで相談し助言を得たり情報交換をしている他、必要に応じて代表者が相談に出向き、情報交換をしているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や認知症カフェ参加時に相談し助言を得ている他、電話やFAX、研修や会議の場で情報交換をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が三ヶ月に一回以上の研修を受け、身体拘束の禁止を共通理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。又、身体拘束等の適正化の為の指針も整備している。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、取り組みの確認と研修を行っている。職員は「身体拘束等の適正化の為の指針」に基づいて、内部研修で「接遇・マナー」や「身体拘束と高齢者虐待」を、法人研修で「高齢者虐待」について学んで、身体拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて、気づいたことは職員同士で注意し合ったり、管理者が指導している。玄関の施錠はしているが、外出したい利用者がいれば、職員と一緒に外出しているなど、気分転換の工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員にて虐待防止の研修を行い、又意見を述べ合いながら話を進めて行く。職員一人一人が注意しながら虐待が見過ごされる事のないよう、日々防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は権利擁護に関する研修を一人一人が受ける事によって、又学習機会を持ち、最善の支援が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に締結、解約や改定に関する説明を十分に行い、ご家族の不安等を聞き、理解、納得を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談苦情の受付体制や手続きの説明を行い、面会時等に意見や要望を聞き、運営推進会議等にて報告をし、運営に反映させている。	契約時に相談や苦情の受付体制、処理手続きを本人や家族に説明している。意見箱を設置している。面会時や年2回の家族会、行事参加時、電話、ケアプラン作成時の担当者会議などの機会に、家族からの意見や要望を聞いている。毎月、事業所だよりを送付したり、面会時には、管理者が利用者の暮らしの状況を伝えて、意見を出しやすいように心がけている。出た意見や要望は、「職員連絡帳」に記録して共有し、職員会議で検討している。食事以外の栄養補給として、持参の栄養ドリンクの補給を支援しているなど、家族からの要望や意見をケアに反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、日々の申し送り、ミーティング時に意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	月1回の職員会議や個別対応について話し合うミーティング、毎日の申し送りなどで、職員の意見や提案を聞いている。管理者は日常の業務の中で職員と常に話し合い、職員が気軽に意見を言えるような雰囲気づくりをしている。職員会議には運営者も出席して、職員一人ひとりの意見を直接聞いている。就業環境整備のための希望や提案を聞き、ES向上運動で、退職金制度の導入や賃金の向上を行うなど、運営に反映させ、働きやすい環境づくりをしている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人一人が向上心を持って働けるように勤務状況を把握し、やりがいのある職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人研修を行い、職員が参加出来るように勤務体制を配慮している。管理者や職員一人一人のケアと力量を段階に応じて研修を受けられるよう勤勉に努めている。	外部研修は、職員に情報を提供し、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年は管理者が「認知症対応型サービス事業管理者研修」に参加し、受講後は職員会議で伝達し、資料を閲覧して情報を共有している。法人研修は、年間計画を立て、企業理念、行動指針、コンプライアンス、質のよいサービスを提供する為に、介護保険法改正、高齢者虐待などをテーマとして、全職員が参加できるように、同じ内容で月2回実施している。内部研修は、法人内のグループホームが話し合っただけの年間計画に沿って、月1回の職員会議と併せて実施し、理念の共有と実践、接遇マナー、応急処置法、食中毒、感染症、脱水症、熱中症予防、認知症について、プライバシーの保護と個人情報の取り扱い、看取りなどのテーマで実施している。新人職員は法人の新人研修内容に沿って、管理者が1日指導した後、日々の業務の中で先輩職員から指導を受けている。法人では資格取得の費用負担等の支援をしている。	・外部研修受講の機会の確保
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し同業者と交流する機会を持ち、研修会や交流会に参加して、情報交換等を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の環境や、ご家族の話を踏まえた上で、ご本人の要望、不安要因をしっかりと聞き取り、その人らしく穏やかに過ごせる環境を整えるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、困惑、ご本人の要望や不安等を聞き、その都度話し合いを行い、信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いから今、必要とされる最善のサービスが支援出来る様に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、本人の残存機能を生かしながら、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の誕生会、年に何度かの家族会を行い、共に過ごせる時間を設け、ご本人の状況を伝え、ご家族と協力し、家族的な繋がりが寸断される事のないように支援している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が面会に来られた際には、居室でお茶を飲んでゆっくり過ごされ、一緒に写真を撮って記録している。また、ご本人の希望や、馴染みの方の希望に応じて、電話での交流や、年賀状や葉書を書くお手伝いをし、関係が途切れないように努めている。	家族の面会や親戚の人、知人、友人の来訪がある他、年賀状や手紙、電話などでの交流を支援している。馴染みの人の来訪時には写真撮影をしている。外出時には利用者の自宅周辺にドライブしたり、馴染みの文化施設や市場に出かけている。家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や墓参り、法事への参加、外食に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、リビングで穏やかに寛いで頂き、利用者同士がゆっくり会話出来る様な、環境作りに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には、ご本人の作品集や思い出のアルバム、お誕生日のメッセージ付き色紙等をお渡ししている。サービス終了後もご家族の相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意志を尊重し、ご本人に寄り添い、本人本位でその心に応えられるように努めている。24時間シートを活用し言動や変化を職員全員で共有している。	入居時に、生活暦やこれまでの生活の様子(趣味や興味のあること、得意なこと苦手なことなど)などを、本人や家族から聞いてアセスメントし、「基本情報シート」に記録している。日々の関わりの中で気づいた利用者の表情や行動、利用者の体調、利用者の気持ちなどを「24時間生活変化シート」に記録している他、面会時や介護計画作成時に家族から聞いたことなどを、職員間で話し合っ、利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族に相談したり、職員間で本人本位に検討して、共有している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族との会話やアセスメントシートから、生活歴や、馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努め、日々の生活の中で少しでも反映出来る様に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、ご本人と積極的に関わりを持ち、心身の状態や、残存機能の変化の把握に努め興味を示す事には共に関わる様に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の際、ご本人、ご家族、医師の考えをもとに、それぞれのアイデアを反映し、ご本人の課題や、介助の在り方について話し合い共有している。	計画作成担当者が中心となって、利用者の状態や表情がわかるよう要点をまとめた「施設介護経過」を作成し、主治医の指示や意見、看護師の意見を参考にして、月1回のカンファレンスで、職員間で話し合い、利用者や家族の思いや意向を反映させた介護計画を作成している。日々のケアを「サービス提供状況表」でチェックし、月1回、モニタリングを行っている。3ヶ月または6ヶ月毎にアセスメントを行い、計画の見直しをしている他、利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の様子や気持ち、介助について個別の資料に記録し、職員間で情報を共有しながら、ご本人本位の介護計画の見直しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安全に社会生活を送れるように外出支援や、スーパー、病院、地域との関わりが出来るように支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時々々の身体状況を観察し、ご家族、ご本人のニーズ又専門家に相談しつつ、柔軟にサービス内容を見直すように取り組んでいる。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の説明を行い、ご家族に選んで頂き、同意を得る。月2回の往診があり、ご家族からの情報を的確に伝え、かかりつけ医との連携をとり、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、協力医療機関をかかりつけ医とする利用者には、月2回の訪問診療がある。歯科は必要に応じて歯科医師の往診があり、口腔管理指導を受けている。他科へは家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時は訪問看護師の記録や家族の希望等の情報を医療機関に提供し、受診結果は家族に電話等で伝えている。かかりつけ医の指示や意見を職員連絡帳で全職員が見て確認し、情報を共有している。「24時間シート」を基に、訪問看護師が健康管理を行い、休日や夜間の緊急時には、24時間オンコールの訪問看護師やかかりつけ医などと連携して、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時や体調不良時、必要があれば受診し、緊急時は24時間体制で支援している。健康チェック表にてアドバイスを頂く。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と共にご本人、病院関係者と面談し、入院時、ご本人やご家族が安心して治療出来るよう又早期退院出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、ご家族の意向を聞き、主治医等との話し合い、移設や看取りも含めて方針を決めて支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における指針」に基づいて、重度化した時や終末期に事業所でできる対応について、移設を含めて家族に説明し、同意書を交わしている。実際に重度化した場合には、早い段階から管理者が家族の意向を聞き、かかりつけ医や看護師等の関係者と話し合っ方針を決めて共有し、職員会議で検討して、看取りも含めてチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒、誤薬等を防ぐ為、再発防止に関わる対策を話し合い、全体で共有する。一人一人の事故防止に取り組んでいる。また、応急処置や災害時の対応について研修を受け、実践力を身につけるよう取り組んでいる。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット報告書や事故報告書に、原因や対応、再発防止策等を記録して、申し送り時に報告するとともに全職員に回覧して周知している。月1回の職員会議で再発防止策について再度話し合い、介護計画に反映させているなど、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で応急処置法、誤嚥、食中毒、感染症、脱水症、熱中症予防などのテーマで、応急手当や初期対応について学んでいるが、全職員が実践力を身につけているとはいえない。	・全職員での応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者、職員は年2回、夜間想定を含めた避難訓練を行っている。災害時は落ち着いて行動するようにし、利用者様が慌てないように声掛けしながら行動する。また、事業所の緊急通報システムに自治会の方々の登録があり、協力の了承を頂き、日頃より地域との協力体制を築いている。	年2回、夜間想定を含めた消火、通報、避難訓練を利用者の参加を得て実施している。緊急通報システムに自治会の登録があり、災害時は自動通報システムが作動し、自治会長から各家庭に連絡する体制が整えられている。法人全体で150食程度の非常食を備蓄し、一時避難場所として近所の教会の協力を得ることとなっている。運営推進会議で避難場所を伝えたり、避難経路の確認をしているが、訓練への地域の人の参加は得られていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けに気を付けて、一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損なう事のないよう対応している。	職員は、内部研修で接遇や人格の尊重、プライバシーの確保、個人情報の取り扱いについて学び、利用者への尊敬の念を大切に介護に取り組み、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応について気づいた時は、管理者が注意している。記録物など個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務を遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	適切な言葉掛けや、職員の都合や強制ではなく、ご本人が自分らしく生活が出来るように気を配りながら支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意志を尊重し、体調や心情に配慮しながら、一人一人のペースを大切にし、一日を穏やかに過ごす事が出来るように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアーカットも月に一回実施し、季節や気温に合わせた、体温調節に気を配り、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等、一緒に出来る事は手伝ってもらい、食事が楽しみなものになるように支援している。	利用者の好みを聞き、季節感を大切にした献立を立て、三食とも事業所で調理している。利用者は、食材の買い物や下ごしらえ、お茶バック詰め、味見、盛り付け、テーブル拭き、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者職員は、同じテーブルで食事をしている。季節のメニュー(節分の巻き寿司、そうめん流し、クリスマス、年越しそば、おせち料理等)や誕生会のちらし寿司とケーキづくり、外食(回転寿司)、弁当を持参しての外出(リフレッシュパーク)、認知症カフェでの喫茶、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、食事摂取量を記録し、ご本人の体調に合わせて、食事形態や水分量を調節している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、ご本人が出来ない所は介助しながら清潔を保持している。口腔ケアで使用しているコップ、歯ブラシ、義歯ケース等は定期的に消毒を行い、清潔にしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人が不快感を感じない、一人一人の排泄パターンにあわせ声掛けをしてトイレ誘導を行い、パットや紙パンツの交換を行っている。布パンツで排泄の失敗がある方は、家族とも話し合い、パットを使用させて頂き、本人にも気持ちに配慮しながら説明し納得されている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりのパターンを把握し、羞恥心や不安に配慮した言葉かけや対応をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の摂取量や水分摂取量に気を付け、水分補給や、体操やレクリエーションへの参加を促し運動の声掛け等で便秘の予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人希望を伺い、入浴への無理強いをせず、入浴される時は十分に時間を取り、ゆっくりとリラックス出来るように心掛け、ご本人様に喜んで頂くように支援している。	入浴は14時から15時30分まで可能で、希望すれば毎日入浴できる。順番や湯加減、好みの石けん、入浴剤の利用等、利用者の希望に合わせてゆっくりと入浴を楽しむことができるように支援している。利用者の状態に合わせてシャワー浴や部分浴、清拭などの支援をしている。入浴したくない人には無理強いをせず、タイミングを見たり、職員の交代や言葉かけを工夫するなど、一人ひとりに応じた入浴の支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、出来る限り、他入居者や職員と会話を楽しんだり、体操やレクリエーションで体を動かして頂き、体調に合わせて無理せずに休息しながら夜間良眠出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように声掛け、確認をしながらしっかりと飲み入れるまで見守り、服薬して頂き、服薬後の症状の変化を確認しながら支援している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意な事を把握し、無理のない程度で家事作業を手伝って頂いたり、レクリエーション等を通して歌を唄ったり、塗り絵や脳トレを行い、楽しく生活出来るように支援している。	季節の行事(節分の豆まき、そうめん流し、協会のクリスマス会、家族と一緒にの敬老会や年末の大掃除、リースづくり、誕生会)、教会の花の日の子供たちとの交流、ボランティアによるフルーツ演奏、平家太鼓、童謡の会、料理の下ごしらえ(ジャガイモの皮むき、もやしの根切りなど)、味見、盛付、配膳、下膳、台拭き、食器洗い、プランターの水やり、花を生ける、花瓶の水替え、苗の植え付け、野菜(ネギ、トマト)の収穫、洗濯物干し、洗濯物たたみ、シーツ交換、布団干し、カーテンの開閉、掃除、雑巾縫い、テレビやDVDの視聴、歌を歌う、本や雑誌を読む、日記をつける、ぬり絵、貼り絵、折り紙、習字、編み物、カラオケ、壁面飾りづくり、カルタ、トランプ、お手玉、脳トレ(計算ドリル、漢字ドリル、四文字熟語、穴埋め、ことわざ)、パズルゲーム、リハビリ体操、DVD体操など、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日に、本人の体調や希望に合わせて、散歩、外気浴、買い物等を行っている。また、季節に合わせて、花見、夏祭り等、地域の方々の協力の下、戸外に出かけられるよう支援を行っている。職員が支援しきれない部分はご家族協力の下、外食や、美容院等の協力を得ている。	事業所周辺の散歩や公園での花見、大学生との焼き芋の会、弁当を持参しての外出(リフレッシュパーク)、地域の認知症カフェへの参加、外食(回転寿司、大型店舗のフードコート)、ドライブ(深坂の森など)、コンビニエンスストアやスーパーマーケットでの買物、花の水やり、家族の協力を得ての外食、買物、墓参り、法事、馴染みの美容院の利用など、家族や地域の人々の協力得ながら、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の承諾の下、ご本人の思いに応じて、トラブル等ない金額を財布に入れ対応している。ほとんどの方、ご家族の承諾の下、こちらで管理させて頂き、職員が要望に応じて購入し、お渡しできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人の協力を頂き、ご本人の希望に応じて電話が出来るようにし、手紙もいつでも出せるように、職員の見守りの下、支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう、玄関先やベランダに季節の花を置いたり、廊下には観葉植物を置いており、不快のない環境作りに取り組んでいる。また、季節を感じて頂ける壁面の作成や、ゆったりとした音楽を流し、必要に応じて席を決め、空気清浄機にて感染防止や消臭に努めている。	食堂兼リビングは広く、大きな窓からの自然光で明るい。ベランダのプランターの季節の花や野菜などが季節を感じさせる。室内には観葉植物を飾り、季節の花を飾ったテーブルや椅子、ソファをゆったりと配置し、廊下のソファや畳のコーナーでもくつろぐことができる。壁面には利用者と職員が一緒につくった季節の貼り絵を飾っている。対面式の台所からは調理をする音や匂いが漂い、生活感を感じることができる。お茶や食事の時間には童謡やピアノなどの音楽のCDを流し、気分転換できるよう工夫をしている。室温や湿度、換気に配慮して、空気清浄器を活用するなど、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に畳やソファを配置し、1人の時間を大切に、ご利用者同士や職員との関係作りを大事に出来る空間作りの工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のなじみの物や、昔から使用していた家具等を持ってきて頂いたり、思い出の写真を飾る等、居心地よく生活して頂けるよう努めている。	ベッド、椅子、衣装ケース、鏡、大きな人形、ぬいぐるみ、使い慣れた化粧品などを持ち込み、カレンダーや家族の写真、自分の作品(習字、折り紙)、パッチワークタペストリー、ブリザーブドフラワーなどを飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等に表示を作り、ご自身で行けるようにし、対面キッチンを中心に設置し、配膳等と一緒に出来るようにしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 棕野

作成日: 令和 2 年 9 月 21 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	応急処置や、災害時の対応の訓練や研修は行っているが、一部の職員だけではなく全職員が実践力を身に付けるように今後も継続して取り組まなければならない。	応急処置や災害時の訓練を受けれるよう体制を整え、全職員が必ず参加出来るようにする。	定期的に災害時の対応や応急処置の講習を行う事により、全職員が訓練に参加出来るようにする。	1年
2	36	年2回行なっている避難訓練に地域住民の人の参加が得られておらず、災害時における地域との協力体制を構築していかなければならない。	避難訓練に参加して頂く事により、緊急時どのように対応していくのか、地域の方と共有し、対応出来るようにする。	運営推進会議や地域の回覧等でお知らせをし、出来る限り参加して頂けるようにする。	1年
3	14	毎月法人研修を行ってはいるが、法人外での研修受講の機会の確保が出来ていない為、外部研修を受講出来るような体制作りに取り組まなければならない。	外部研修の情報を全職員が共有し、勤務の一環として参加出来る環境を作る。	職員ミーティング等で研修のお知らせを行い、全職員に情報を提供し、参加して頂ける機会を確保する。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。